

平成 30 年度第 5 回

逗子市子ども・子育て会議 会議録

平成 31 年 2 月 19 日開催

第5回逗子市子ども・子育て支援会議 平成31年2月19日(火) 会議録

日 時	平成31年2月19日(火) 15時00分から17時00分まで
開催場所	逗子市役所4階 全員協議会室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>三谷大紀委員長(会長、座長)、横地みどり副委員長(副会長)、辻義和委員、井出久美子委員、角田進委員、小関富美江委員、中島亜紀委員、草柳ゆきゑ委員、山崎夏子委員、杵山英廷委員</p> <p style="text-align: right;">以上10名</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>山田教育部部長、高橋教育部次長、中村子育て支援担当課長、杉山保育課長、粟飯原保育課副主幹、雲林療育教育総合センター所長、村上子育て支援課主幹、椛島主事、服部社協職員</p>
欠席者	角田朋子委員、石井稔江委員、久保健太委員、栗山仁委員、猿田貴美子委員(5名)
開催形態	公開(傍聴者 なし)
議 題	<p>(1) 放課後児童クラブの利用選考基準について</p> <p>(2) 保育所の利用選考基準について</p> <p>(3) 小規模保育事業の認可について</p> <p>(4) 子ども・子育て支援事業計画改訂に伴うニーズ調査の集計速報等について</p> <p>(5) その他</p>
議 事	別添 発言要旨のとおり
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次 第</li> <li>・会議室レイアウト</li> <li>・委員名簿</li> <li>・(資料1) 放課後児童クラブの選考基準の新設について</li> <li>・(資料2) 保育所等利用調整基準の見直しについて</li> <li>・(資料3) 小規模保育事業の認可等について</li> <li>・(資料4) 子ども・子育て支援事業計画に伴うニーズ調査の集計速報</li> <li>・(資料5) 子ども・子育て支援事業計画改定に伴うニーズ調査(小学生)調査票(案)</li> </ul>

## 第5回返子市子ども・子育て会議 平成31年2月19日(火) 議事録

### 【議題】

- (1) 放課後児童クラブの利用選考基準について
- (2) 保育所の利用選考基準について
- (3) 小規模保育事業の認可について
- (4) 子ども・子育て支援事業計画改訂に伴うニーズ調査の集計速報等について
- (5) その他

### 1. 開会

委員 15 名中 10 名出席 議事録の署名人は、三谷委員と井出委員

### 2. 議題・報告等

#### 【議題1】放課後児童クラブの利用選考基準について

事務局より放課後児童クラブの利用選考基準について説明（省略）

#### （質疑応答）

【小関委員】3・4年生を利用決定のポイントに考えるのかということを確認したい。池子小学校と小坪小学校で待機児童が出る場合、夕方型を行う可能性はあるのか。「17時以降の必要度を考慮する」とあるが、フルタイム勤務の人は残業もありお迎えに行けないため、ひとり帰りを希望としている中・高学年の子も多いと聞く。夏休みなど長期休暇における学童の考え方をお聞きしたい。また、アンケートの実施時期と、どれくらいの人を対象と考えているのかお聞きしたい。

【横地委員】保護者が仕事でお迎えに行けず、やむをえずひとりで帰らせている現状がある中で、本来のニーズが把握できないのではないかとということです。

【事務局(杉山保育課長)】5・6年生については、小学校区間による不公平は本来あるべきではないので、極力差のないようにできればと思っている。二点目の、夕方型の可能性については、活動場所を新たに確保できる手法かどうかとも検討の余地があると思っているので、夕方型の可能性について、いまお答えできる状況ではない。

【三谷会長】可能性はあるが前提にはしていない、ということである。

【事務局(杉山保育課長)】ひとり帰りの子については、入所を決定した段階で、お迎えをするかしないかという質問はこれまでもしていないし、今後もするつもりはないので、ひとり帰りをすることで優先度を下げたり上げたりすべきではないと思っている。長期休暇中の学童については、原則として、空きがあれば受け入れる。実際、別のクラブを利用している子も若干名いるが、普段とは違う環境で長い時間を過ごすことになるため、あまりお勧めはしていない。他市の例で、夏休みの間だけ別途場所と人員

を確保して開催しているところもあるが、子どもたちの様子や家庭状況をしっかり把握する必要がある事業なので、夏休みだけ別の人材が担うというのは現実的には難しいかと思う。アンケートについては、対象としては実際に放課後児童クラブを利用している保護者の方としている。

【小関委員】他市の例で、夏休みだけ別のクラブを作ったり、無理な受け入れをしている所もかなりある。夏休みは子どもの安全や生活が非常に気になる時期であり、決していいこととは思わないが、待機児童ということから考えると、必要としている児童が全員入れるものをすぐに作っていただきたいと思いはある。

【三谷会長】現実には、今、学童を利用していない子は、夏休みはどこでどうしているのか。

【事務局(杉山保育課長)】4年生までは従来型で受け入れ、5・6年生は夕方型でというのが今年度の決定内容。夏休み・平日問わず、17時から学童が利用できるのもので、それまではふれあいスクールを中心に利用してもらうという想定。

【小関委員】ふれあいスクールに行けない子は図書館に行っている。

【中島委員】祖父母の状況については今度の基準ではどうなっているのか。保育園の入所選考だと、家族に65歳未満で就労していない人がいると減点される。

【事務局(杉山保育課長)】減点にはならないが、同点だった場合には、祖父母がいない方を優先する。

【中島委員】祖父母が近くにいても、例えば父方の実家だったりすると、いても頼みにくいということもあるので、そこは加味してほしくない。

【小関委員】きょうだいは一緒に入所した方がいいという考えもある一方、高学年より低学年を優先すべきという考え方もあると思う。それについてはどう考えているのか。

【辻委員】中・高学年となっても継続利用とすべき事項のところ「配慮が必要な児童」とあるが、例えば障がいがあるということなのか、それとも普段の様子を見ていてクラブ側で配慮が必要だと判断されるような場合も含むのか、そのあたりのことが聞きたい。

【三谷会長】特別な配慮が必要な子を、選考に加味することができるのかどうか。

【事務局(杉山保育課長)】一般的に発達障害と呼ばれているものは定義がないので、文部科学省の定められた就学基準に従い、支援学級に入る場合もある。それ以外で特別な配慮を必要とする子は、それぞれの子が抱える課題によって必要な環境が変わる。発達障害に限らず、社会性の高さは測りづらいので、そこを加味するのは現実的には難しい。保護者からの相談により、個別の事情を加味して対応することはできるかと思う。

【辻委員】クラブのスタッフが子どもたちを見ていて感じる見守りの必要性について、数値で表せるようなものではないので難しいとは思いますが、何らかの配慮という形で加味出来たらよいと思う。

【事務局(杉山保育課長)】過去には市内に祖父母がいる方や保護者が在宅勤務の方に個別に連絡をとり、受け入れ可能数を超えている現状について理解を求めたこともあったが、数が増えてくるとなかなか難しい。一方で平成28年に6年生全員を待機とした時、全員が待機なら仕方ない、という空気が保護者に見られた。3・4年生に焦点を当てて制度をつくっていききたいという話をしたが、点数によっては5年

生でも入れたり、逆に3年生なのに入れないというケースも出てくる。高学年なのになぜあの子は入れるの？というような話が保護者の間で出たりすると、子どもを傷つけかねないため、全体の中でうまく整理していかないといけない。

【三谷会長】まず学年を優先して決めた方がいいのか。低学年は必ず入れるようにし、その上で、高学年も受け入れるが、利用調整を設けるとした方がよいのか。皆さんはどう思われますか。

【小関委員】サポートや配慮の必要な子が全員手帳を持っているとは限らない。特別な事例による保護者の申立書があるとありがたい。誰が申立てをするかというのもポイントで、クラブのスタッフからの申立てとすると、配慮が必要な子は手がかかるということで敬遠され、申立てをしてもらえないおそれもある。保護者からの意見は数値化することができず難しいとは思いますが、加味してもらいたい。

【三谷会長】学校から申立てはできないのか。特別支援学級にいるわけではなくても、普通のクラスでの様子を見ていて支援が必要かどうか、担任の先生ならよくわかるのではないか。

【小関委員】学校の方で出してくれるシステムがある。

【三谷会長】クラブのスタッフが、この子には支援が必要だという思いで申立てをしてくれる場合は良いが、「この子がいなければもっと楽なのに…」という思いをもってしまうことは、人間なのであり得ると思う。そういった場合に、クラブとは別に学校からの意見という複数の見方があるとよいと思う。

【草柳委員】子どもの気持ちも大事。その子自身がどのように感じているか。安全・安心ということを考えれば、大人の目が行き届くところにいるのが一番いいのかもしれないが、とても難しい。

【辻委員】見守る大人がいて、環境としても安全な場所というのが大事。クラブではない他の場所が伸び伸びと過ごせるというのなら、それでもいい。

【小関委員】犯罪に巻き込まれる事例もある。子どもの気持ちを大切にする必要はもちろんあるが、まずは安全を考えることが必要かと思う。

【横地委員】保育園と学童が違うところは、利用にあたり、本人と保護者の希望が出てくること。学童は学校と比べてスペースが小さく、居心地が悪いと感じる子もいるかもしれない。この調査の中では学童をやめた子がその後どうしたかまではわからないが、別の場所で居心地よく過ごしているかもしれない。今の学童に放課後の見守りが必要な子どもをすべて入れようというのではなく、調査をして、学童の他にはどういう選択肢があって、どこで子どもたちは過ごしているのか、また、どこにも居場所のない子もいるのかといったことが分かれば、答えになるのかなと思う。アンケートの中に、追跡調査のような部分も入るのか。

【事務局(杉山保育課長)】基本的には現在クラブを利用している子のみ。やめた理由にはいろいろな要素が含まれるので、難しい部分がある。

【横地委員】そこを本当は課題としてとらえなければならないのではないか。

【角田(進)委員】どういう基準で入所者を決めるかということも大事だが、本当に必要数に対して場所や人が足りないということなら、器はそのままでもどの子をはじくかを考えるのではなく、場所や人の整備にきちんと投資をするという方向にした方がいいのではないかと思う。

【小関委員】保護者アンケートでは、具体的な事例を示してもらう方が保護者にもわかりやすいと思う。

【三谷会長】具体的な事例を挙げてこういうケースではどちらがよいかというのと、ポイントとなる事項に○△□を付けるというのと、両方出すのがいいと思う。ご検討いただきたい。

## 【議題2】保育所の利用選考基準について

事務局より保育所の利用選考基準について説明（省略）

### （質疑応答）

【三谷会長】現状の保護者の対応をしていく中で出てきた課題の見直しをしていくということである。

【辻委員】実際に、私の周りでも結構待機になった子がいた。フリーランスのスポーツ選手や、基本は在宅だが海外に行くこともあるような職業の保護者だった。ひとつ確認だが、同居の祖父母がいると、点数が下がるのか。

【事務局(栗飯原副主幹)】下がる。

【辻委員】待機になった人の話では、祖父母はもう75歳を過ぎていて子どもを預けることはできず、同居ではあるが頼れないということだった。同居の祖父母が要介護ではないが年齢が高い場合、配慮等があってもいいのかなと思う。いま高齢出産も増えており、そういうケースもあると思う。

【事務局(栗飯原副主幹)】祖父母が65歳以上の場合、全く同点で優劣の付けようがないというごく限られたケースを除き、同居の祖父母の有無は考慮しない。祖父母を日常的な育児の担い手として見るのは現実的に不可能であると考えているので、できるだけそのようなことがないように考えている。

【三谷会長】保育士確保策として、来年度は公立・民間に関係なく、保育士フェアをやっていただきたい。逗子にこんな面白い保育園がある、保育士にはこんなメリットがあるということをしつかり発信するイベントを開催されることをぜひお勧めする。また、希望園が多い方が困窮度が高いと判断することだったが、これは明文化するのか。

【事務局(杉山保育課長)】する。

【小関委員】保育士はかなり優遇されている。将来、学童保育の支援員も対象としてほしいと思う。

【三谷会長】福祉職ということでもいい。逗子の子育てにまつわる職業にはこんなものがあるというフェアをやったらよいのではないか。関東学院大学、鎌倉女子大学、玉川大学など近隣の保育士養成学校にチラシを配るなど、宣伝が必要だと思う。

【草柳委員】きょうだいで別の保育所に通っているケースを見ているので、きょうだい同時申込みの場合の加点はぜひお願いしたい。

【事務局(杉山保育課長)】フルタイム勤務の人は概ね入れている。これがどちらかが短時間勤務だと点数が下がる。年齢が上がるにつれ募集人数が少なくなっていくので、下の子は入れても上の子は入れないなど、なかなか難しいのが現実。きょうだい同園を優先すると、基本的に就労時間によりポイント制にしているのに、就労時間が短いにもかかわらずきょうだい加点で入れたというようなことも出てくる。選考などなく、全員が希望する園に入れるのが一番いいが、育児休業が最長2年まで延長できるように

なったというのは、全ての人が1歳の時に申し込めるように変わったということである。従来の申し込みは4～9月生まれが多く、その傾向は今年度も変わっていない。数字が変わったのは、復職予定ではなく、すでに復職しているという人。

【三谷会長】11月生まれ以降だと、0歳枠はもう埋まっているので、次の4月に申し込む。認可の0歳児枠にはもう申し込みできないので、無認可に預けて働く。

【事務局(栗飯原副主幹)】実際、子どもが0歳で復職するのは、仕事が忙しくて休めないような人。

【横地委員】子が0歳児で復職した場合、赤ちゃんはどうしていたのか。

【事務局(栗飯原副主幹)】無認可に預ける、実家に預けるなど。

【横地委員】医療関係だと院内保育に預けて、とにかく復職するというような極端な例も聞く。

### 【議題3】小規模保育事業の認可について

事務局より小規模保育事業の認可について説明（省略）

（質疑応答）なし

### 【議題4】子ども・子育て支援事業計画改訂に伴うニーズ調査の集計速報等について

事務局より子ども・子育て支援事業計画改訂に伴うニーズ調査の集計速報等について説明（省略）

（質疑応答）

【小関委員】今回、体験学習施設の利用状況を聞く項目があるとのことなので、用語の解説の中に体験学習施設の簡単な説明があるといいと思う。また、保護者が就労している家庭は回答率が低いという話を聞いているが、そうすると学童保育の利用者の回答が少ないということになり、少し心配だ。

【三谷会長】小学校で配布するのか。

【事務局(村上主幹)】そうである。前回も同じように小学校を通じて配布したが、郵便で送付した未就学児の調査よりもだいたい回収率が高くなった。

【小関委員】インターネットで回答できるといいのにと意見が保護者から出ている。今後検討いただければと思う。

【事務局(村上主幹)】費用もかかり、なかなか難しい。

### 【議題5】その他

事務局より ①幼児教育・保育の無償化について ②幼保小の連携について説明（省略）

（質疑応答）

【三谷会長】幼保小の連携について、ぜひ率直な意見を話し合える場をつくっていただきたい。スタートアップカリキュラムでは小学校側が本当は何を望んでいるのか、建前と本音、幼保側が本気で幼保の段階で何を育てて小学校側に送り出そうとしているのかということきちんと出し合ってほしい。今回改定になった学習指導要領ではどう描かれているかを考えた時に、齟齬がある可能性はあると思う。幼

幼稚園でも保育園でも等しく質の高い幼児教育をするということ、それが小学校以降の教科学習や学びにつながっていくということを示した。幼稚園も保育園も、学校の一部である。まず幼保がきちんと足並みをそろえて、小学校に送り出すときに自分のことを自分で選んで決められるように、しっかりと遊びこむことを大事にしていくと幼保側は打ち出してくると思う。おそらく小学校側は中学校との接続で頭がいっぱいだと思うが、幼保小を繋ぐことで今後益々逗子の子育てや教育が豊かになっていくのではないかと思います、期待している。

【事務局(杉山保育課長)】 新しい指導要領の中で連携をつくるのは大変なことだと思うが、幼稚園や保育園、小学校の先生ともいろんな議論をして、努力していきたいと思っている。

【三谷会長】 幼保小の接続・連携をきちんとすることが、実は最大の子育て支援になる。幼稚園や保育園では毎日遊んでいるだけか？という問いに、遊びの中で日々認知能力を育てているのでそれが小学校以降の教科学習に繋がるのだということを幼保小で発信してくれば、親は安心して子育てに向かえる。乳幼児期は何を大事にしていくべきか、小学校では、そこをぜひ議論していただきたい。

【事務局(村上主幹)】 今回の会議が平成 30 年度の最後の会議となる。併せて、委員の皆様の任期も終了する。ありがとうございました。

### 3. 閉会

以上により本日の議事を終了し、第5回逗子市子ども・子育て会議を閉会し、散会した。

なお、議事の経過並びに結果を明確にするためこの会議録を作成し、会長及議事録署名人は下記に署名押印する。

会長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印